

四季の庭・四季の道

子どもにも楽しめる秋植え球根

浅山 英一

秋に植える球根は、チューリップ、ヒヤシンス、

スイセンなどと大型で花の美しいものもたくさんありますが、小型でも丈夫でよく殖え可憐な花をつけるものもかなり多いものです。

子どもたちにもおもしろく育ちを見まもることができ、その花に期待によせることのできるものを取りあげてみることに致しましょう。

スノードロップ

昔、むかしのその昔、エデンの園に住んでいた神様が一塊の粘土で男の人間アダムを作り農耕の仕事をさせました。その後一人では寂しかろうとアダムの肋骨を一本切り取って女のイヴを作っていました。

エデンの園にはリンゴやイチジク、ブドウなどの果物の木が植えられていましたが、盗ってはならないと固く言われていたのに、ヘビにそそのかされたイブはアダムに勧めて二人でリンゴを盗ってしまったのです。神様は怒って二人を追放してしまっただけでした。

寒空に裸で放浪する姿を可哀想だとあわれんだ天使が、折しも降る雪びらを全部花びらに変えてやりました。そこに咲いた花が純白の花を一面につけるスノードロップだという伝説をヨーロッパの子どもたちは親たちの昔語りに聞かされているのです。

スノードロップはガランサス(和名ユキノハナ)というヒガンバナ科の小球根で、欧州中南部から西アジア地方の山野に群生する植物です。属名のガラとは乳、アンサスとは花のことで乳白色の花という意味です。

図のように外側の花びらは三枚、ふくらみをもって広がり垂れ、内側の三枚は短くて緑色の斑紋が



あつて魅力的です。一球から二、三枚の葉が出て立ち、花弁が垂れて咲く様子はまさしく雪の雫という感じでした。

ガランサス属には五種類ほどあるようですが市販されているのは次の二種です。

なお、球根からガランタミンという薬品が作られ、小児マヒの特効薬として使用されているのとことです。

ガランサス・エルウエシー(オオユキノハナ) 西
南アジア原産で、高さ一〇〜一五センチ、花は大き

く外側三枚は白色で三、四センチ、内側三枚は白く二センチほどです。弁辺に緑のふちどりがありません。早咲きで一月中下旬に雪を割ってでも咲く耐寒力の強い種類です。

ガランス・ニワリス（ユキノハナ） 南欧やコーカサス地方原産の小型種で、高さ一五〜二〇センチ二月咲きです。これも耐寒力が強いので岩組園の石の間でもよく育ちます。内側花弁が八重咲きになる変種もあります。

球根の植えつけ

水はけと日当たりのよい庭なら九月下旬に一〇センチ平方に一球ずつ、深さ一〇センチ程度に植ええます。後は覆土するだけで、三〜五年間は植えっぱなしでかまいません。

もし、鉢植えにしたいときは三、四号鉢に二球植えとし、そのまま土に埋め込んでおきます。地上に置くと乾きの害もあるし、散逸のおそれもあります。

肥料は秋に地表に化成肥料を適宜ばらまいてかきならしておく程度でこと足ります。

コルチカム（コルキカムともいう）

コルチカムはヨーロッパから中央アジアにかけて六〇種以上の自生種が広く分布するユリ科の球根植物ですが、いろいろと交配されて作出された園芸種が市販されるようになってきました。

原産の一つの

コルチカム・

オータムナール

はイヌサフラン

と名づけられて

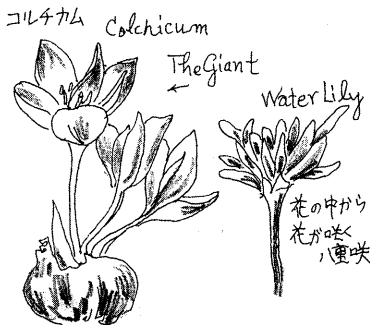
いますが、交配

種はコルチカム

・ヒブリダムと

呼ばれていま

す。いろいろの



品種があるので、参考までに記しておきます。

ライラック・ワンダー 藤紅色の丸弁で花つきは多くやや晚咲きです。

ザ・ジャイアント 濃い藤桃色の大輪尖り弁で球根はよく植えます。

ウォーター・リリー スイレンの花を思わせる美しい濃紫紅色の八重咲きですが、コルチカムの中では殖え方が少ないのが玉に傷です。

植えなくても咲くコルチカム コルチカムの球根は赤ちゃんの握りこぶしほどの大きさですが、発芽部が突き出ているのでころがしても座ったままです。球根を入手したら窓への卓上でも庭の敷石でも座らせておけば、九月末彼岸の頃になると、球根の発芽部から褐色の皮を破って花鞘が伸び、次々と数輪の花が開きます。

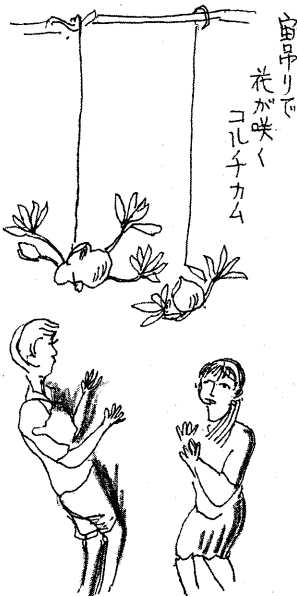
土に植えたり水をやる必要もなく自然

に花が咲くのは、子どもたちにとって不思議な存在なのです。球根は乾いているように見えても、含んでいる水分で、気温が二〇度Cになると花が発育するのです。

注意すべきは球根を箱の中にしまい込んだりして出すのを忘れるとモヤシのようになってしまいます。蕾が出てきたら日光に当ててやれば花色も濃くなってきれいです。

吊るして咲かせるコルチカム

球根の発芽部を避けて底部から上に向けて針金を



さしこんだり細い紐を通して、これを窓べや木の枝などに引っ掛けたりして吊るしておけば宙ぶりのままユラリユラリと揺れながら咲くようになって、子どもたちが拍手喝采すること請け合いです。花が咲き終わったら花壇や庭に植えること

本来は土中で育つ球根なのですから、花が終わった球根は花壇や庭に植え出してやりませぬ。発根部からたくさんの根が出て土中で冬を越し、春早く大きな葉が数枚出て六月まで育ちませぬ。その花芽の基部には新しい球根が出来るのです。

六月には葉が枯れて地表にはなにもありませんが、九月末になればまた花だけが咲くのです。

もちろん、葉が枯れ始めた頃、ていねいに掘り上げると球根が殖えていますから、掘り上げて乾かしておくのも一つの方法です。球根を植えるとき肥料もたつぷり入れておけば新しい球根も大きくなりますが、鉢植えにしたり、無肥料では新しい球根が大きくなりませぬ。

とは言え、新球根が小さな鶏卵大であっても、一、二輪の花は咲く能力はあるのですから大事に育ててやりたいものです。

アネモネ

どなたもこの美しい花はご存じのこと。花が咲いた鉢植えを買って眺めるだけでなく、実生一年球を買って花壇やプランターに植えてみてください。九月に植えれば次の年の春には花が咲くのですから。

植えかたは、実生一

年球を一〇センチ平方に一球ずつ植えるだけ。そのとき球根の上下をまちがえないように。平らな部分からは芽が出、尖った部分からは根が出るのです。花が咲いたら切り花



にしてしまえば次々と新しく花が立ってきますが、咲かせっ放しでは種ができてしまい、次の花が咲きません。

アネモネという言葉は風ということ。花のあと種ができると種についている毛が風を受けて飛び散ってしまうのがこの花の名の由来です。

クロッカスの水栽培

黄、紫、白など春一番早く咲くクロッカスは、花壇にもプランターにも植えたいものです。大きな球根は水栽培ができると誰もご存じなのですがクロッカス・グラスに入れて根が出たと喜んでいるのに置き場所が悪いと花が咲かないのです。

クロッカスの水栽培は水温が一五度Cを下まわるようになつたら始めます。

球根底部から細い根が水中に伸びるようになったら、水位を上げてやりますが、そのまま暖かい室内に置いては花が咲きません、根や葉が出はじめたク

水栽培の要領 クロッカス

水温が15℃以下になつたらはいめる

水位を次々に下げて、耳末には戸外に出して寒さにあゆせる



ロッカス・グラスは年末から一月の末まで戸外に出して〇度Cに近い寒さにあわせることが必要なのです。

葉が出揃ったところに寒さにあつてはじめて花芽が出て三月には咲くのですから、アルプスなどの高山性の小球根は心して育てたいものです。

(園芸研究家)

*「四季の庭・四季の道」は今回で終ります。